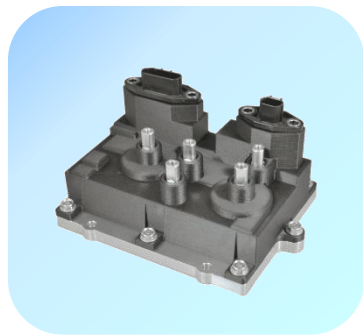


# 株式会社 ニッキ

## 2023年3月期 決算説明会資料



*CARBON NEUTRAL*の実現に向けた着実な歩み

2023年5月30日

(証券コード6042・東証STD)

1. 会社概要
2. 2023年3月期決算概要
3. 2024年3月期の取り組みと業績見通し
4. 中期経営計画の取り組み状況
5. 参考資料

# 1. 会社概要

## 2. 2023年3月期決算概要

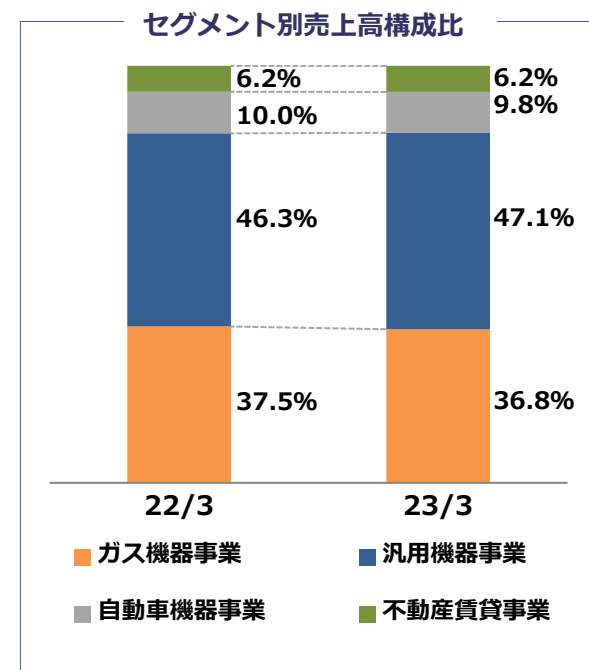
## 3. 2024年3月期の取り組みと業績見通し

## 4. 中期経営計画の取り組み状況

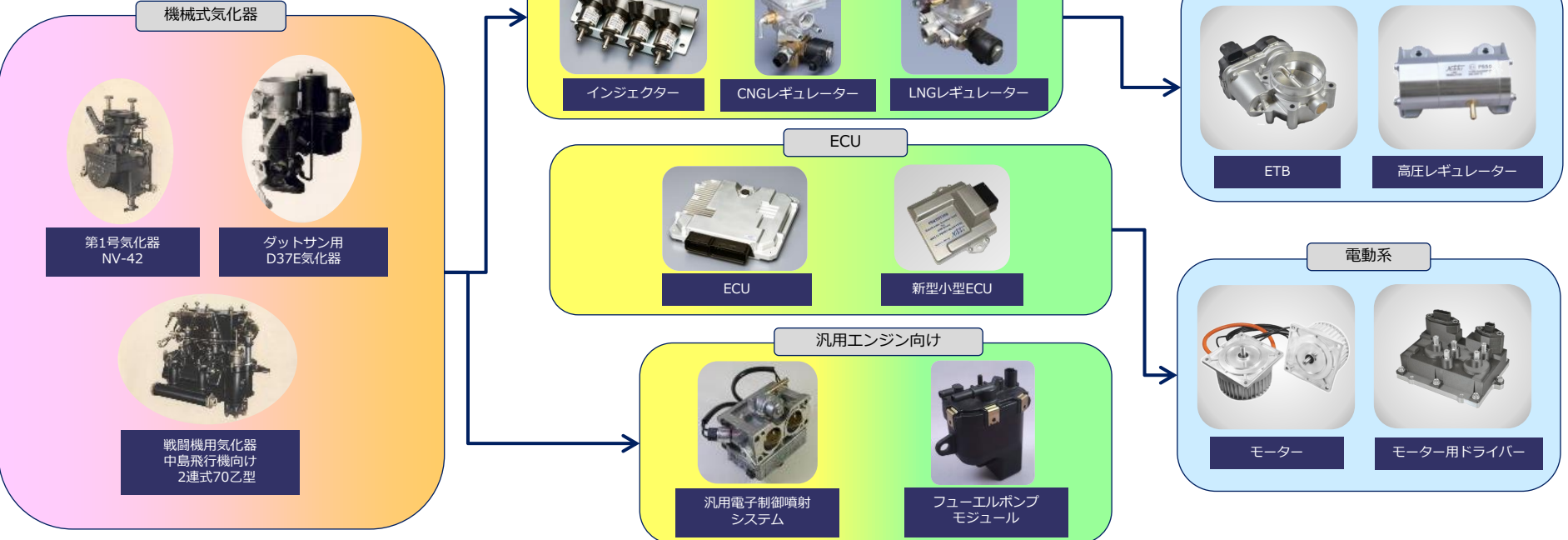
## 5. 参考資料

## CARBON NEUTRALの実現に向けた着実な歩み

商号	株式会社ニッキ
所在地	神奈川県厚木市上依知3029番地
資本金	500百万円
代表者	取締役社長 和田 孝
設立	1932年2月
従業員数	449名（連結ベース、2023年3月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 天然ガス・LPG燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造</li> <li>■ 船舶・小型エンジン用気化器および燃料関連デバイスの設計・開発および製造</li> <li>■ 自動車エンジン用燃料関連デバイスの設計・開発および製造</li> <li>■ モーター制御基板の設計・開発および製造</li> <li>■ モーターおよびモーター制御プログラムの設計・開発</li> <li>■ 水素・アンモニア燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造</li> <li>■ 不動産賃貸事業</li> </ul>
関係会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIKKI AMERICA,INC.</li> <li>■ 瀋陽日新気化器有限公司</li> <li>■ NIKKI INDIA FUEL SYSTEMS PRIVATE LIMITED</li> <li>■ NIKKI(THAILAND) CO.,LTD.</li> <li>■ NIKKI KOREA CO.,LTD.</li> <li>■ (株)ニッキ ソルテック サービス、ニッキ・テクノ(株)</li> </ul>



## 伝統から革新へ



- ・1932年2月 創立
- ・1933年3月 自動車・航空機エンジン用化器開発
- ・1946年 自動車・農業エンジン用化器、燃料ポンプ開発
- ・1963年3月 自動車用LPGキャブレーション装置開発
- ・1982年 自動車用電子制御化器、自動車用スロットルボディ開発
- ・1985年 船舶機用化器開発
- ・1991年 圧縮天然ガス燃料システム開発
- ・2001年 LPG電子制御気体噴射システム開発
- ・2006年 汎用電子制御噴射システム製造
- ・2009年 ガス用トップフィードインジェクター開発
- ・2010年 CNG用1段式レギュレーター開発
- ・2014年 LNG用1段式レギュレーター開発
- ・2015年 熱交換器開発
- ・2017年 新型小型ECU開発
- ・2017年 フューエルポンプモジュール開発
- ・2018年 ETB (重量車向け高耐久品) 開発
- ・2020年 水素用インジェクター、レギュレーター開発
- ・2021年 モータードライバー開発
- ・2021年 アンモニア用インジェクター、レギュレーター開発



# 事業部門の構成と製品

事業セグメント	ガス機器事業	汎用機器事業	自動車機器事業	新規事業 (電動系・メカトロ関連事業) (FCV・水素関連事業)	不動産 賃貸事業
市場	日本、北米、中国、インド、ヨーロッパ	米国、中国、日本	北米、日本、インド、東南アジア、中東	中国、インド、ヨーロッパ、日本	東京都品川区にオフィスビルを所有
主要顧客	いすゞ自動車 グローバルコンポーネントテクノロジー 豊田自動織機 広西玉柴機器 (中) 三一集団 (中) Maruti Suzuki (印) Westport (欧)	Briggs & Stratton (米) Kohler (米) Cummins Power Generation (米) 常柴股份有限公司 (中) 光陽工業 (台湾) 川崎重工 ヤンマー パナソニック クボタ	グローバルコンポーネントテクノロジー 日産自動車 トヨタ自動車 マツダ RANE (印) Tokai Imperial Rubber (印) ZF Commercial Vehicle (印)	中国EVメーカー インド農機メーカー Westport (欧) 日本農機メーカー 日本空調機器メーカー 等	
製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>CNG車, LPG車, フォークリフト向けの燃料供給システム (ECU、インジェクター、ベーパーライザー、レギュレーター、熱交換器、フィルター、ミキサー、ETB等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>汎用気化器 (農業用、産業用)、船舶用気化器、二輪車向け噴射システム、フューエルポンプモジュール、GHP機器等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガソリン車用のスロットルボディ、気化器、アクセルワイヤユニット、ダイキャスト部品、フォークリフト向けキャブレター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モーター&amp;ドライバー、電動ブレーキブースター、スマートバルブ、水素用燃料供給システム (インジェクター、レギュレーター、エアバルブ)</li> </ul>	
生産拠点	日本、中国、タイ	インド、中国、日本	日本、インド	日本、中国	

# 当社の強み 1 - (1)

## ■ ニッキのモノづくりを支える三つの基盤技術

### ① 流体制御技術と機械技術

制御機構の最適化により、液体から気体までの幅広い燃料を制御する流体制御と機械制御の技術

⇒ ガスインジェクター

レギュレーター

遮断弁

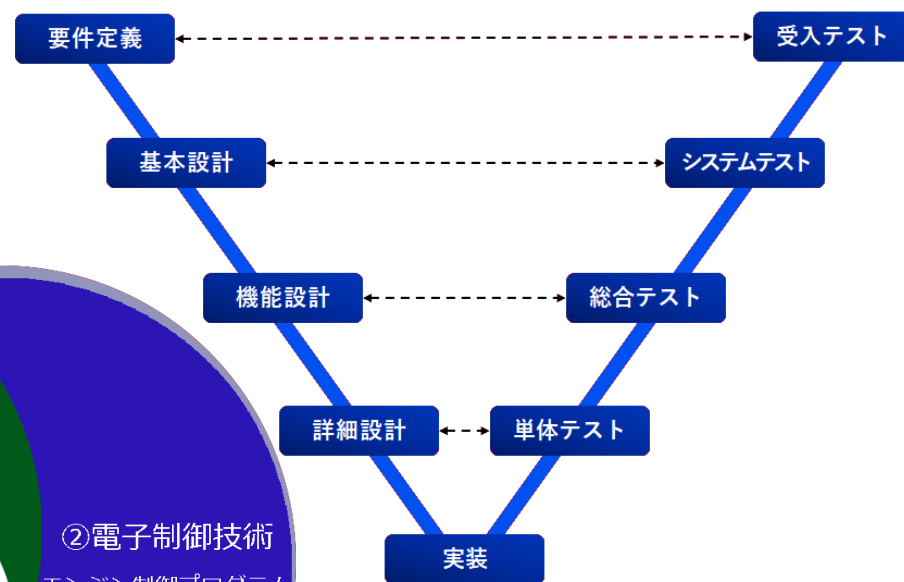
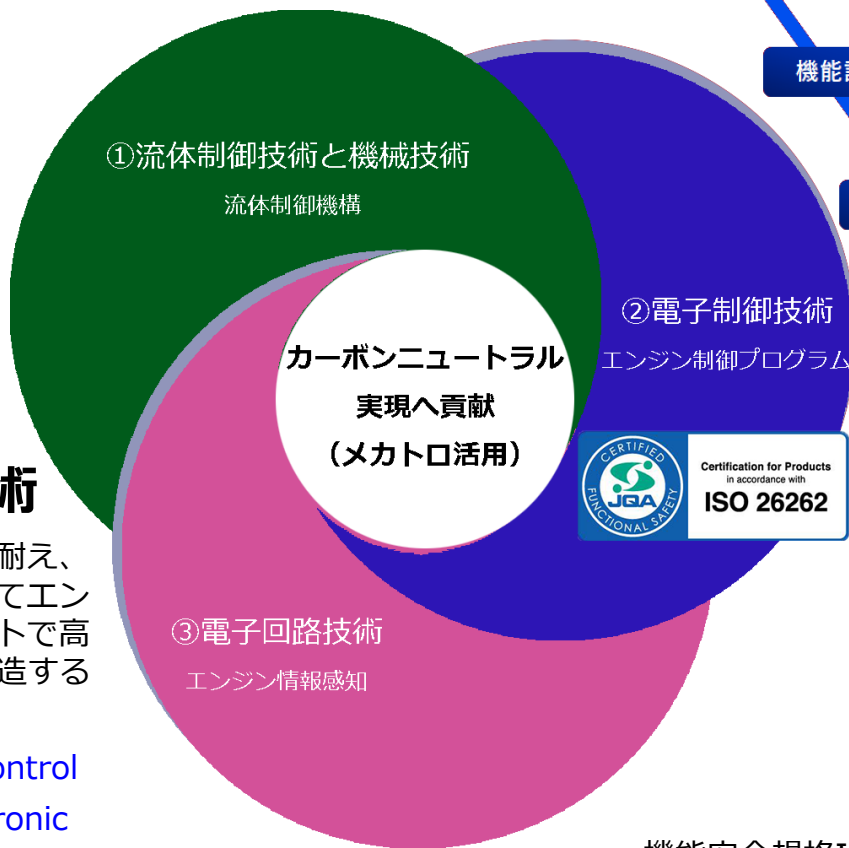
ETB(Electric Throttle Body)

ポンプ等

### ③ 電子回路技術

厳しい使用環境・条件に耐え、制御対象をセンシングしてエンジンを制御するコンパクトで高信頼性なECUを設計・製造する技術

⇒ ECU(Electronic Control Unit)、ECM(Electronic Control Module)



### ② 電子制御技術

外気温、大気圧、エンジン稼働条件などによつて的確な燃料噴射・点火・スロットル制御を実施し、最適な燃焼、スムーズな加速・トルク、排ガス浄化を実現する電子制御のための開発手法とソフトウェア対応ノウハウ

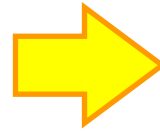
⇒ 制御プログラム

機能安全規格ISO26262を取得するとともに、ソフトウェアの開発/検証手法を確立

# 当社の強み 1 - (2)

## ■ 電動化への対応

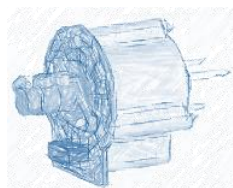
電子制御技術、電子回路技術を活用



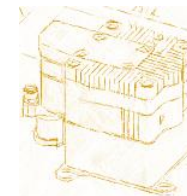
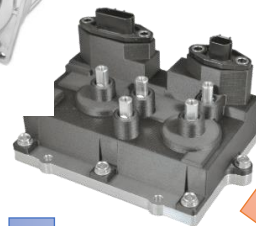
ACサーボモーター&ドライバーを開発

電子制御技術、電子回路技術を活用し、高応答・高精度な位置決めを得意とするACサーボモーターを開発

さまざまなモーターが使われている自動車では、高出力で高効率なACサーボモーター&ドライバーの開発は、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献



車両補機製品類



車両補機製品類



車両ウォータポンプ製品類



農機製品類



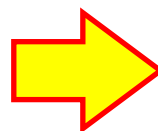
芝刈り機製品類



# 当社の強み 1 - (3)

## ■ 水素燃料への対応

流体制御技術を活用

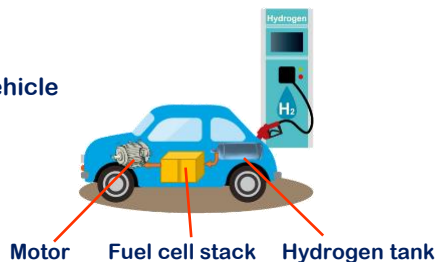


水素用制御機器を開発

水素は、使用してもCO2を排出しない次世代のエネルギーとして期待されている。ニッキは既存のガス事業技術（流体制御技術）を活用し、水素用制御機器を開発。

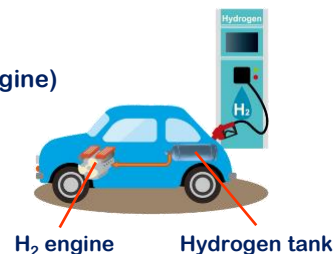
燃料電池車

Fuel Cell Electric Vehicle



水素エンジン車

ICE (Internal Combustion Engine)



コントロールバルブ

インジェクター



エアバルブ

スロットルボディ



高圧レギュレーター



安全弁

**ニッキ水素用制御機器は、燃料電池車、水素エンジン車のどちらにも対応可能**

# 当社の強み 2

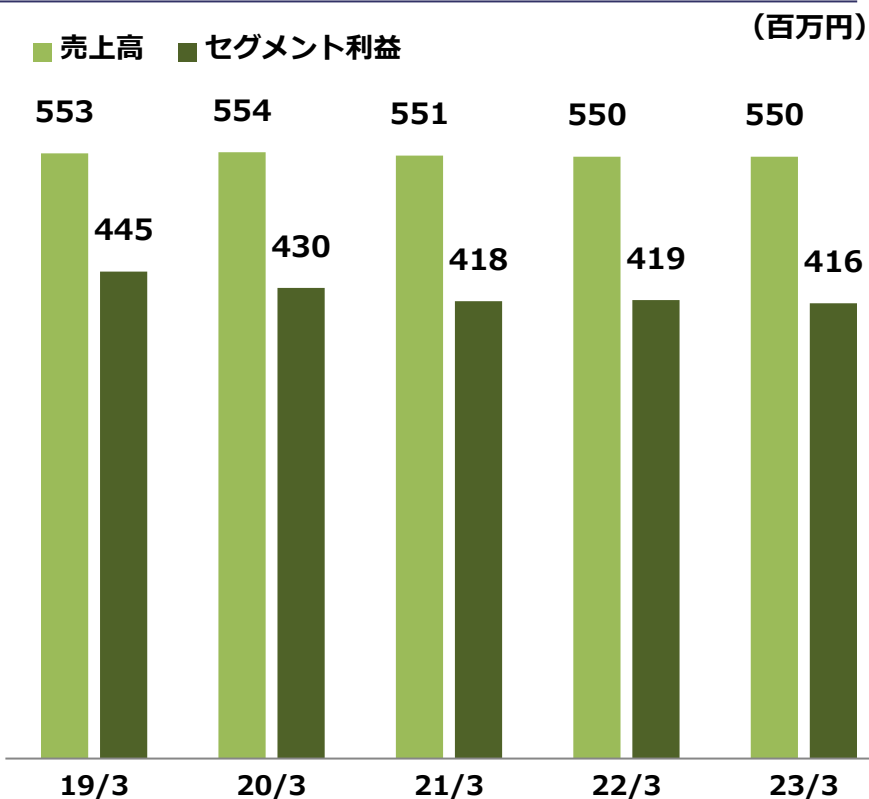
## ■ 保有不動産からの安定収益

### 保有資産の概要

名称	3号館ビル
所在	東京都品川区北品川5-11-3
土地面積	4,959.08㎡（うち62.0%）
建物構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根地下2階付8階建
建物延床面積	20,582.71㎡（うち62.0%）
竣工年月	1996年10月



### 不動産賃貸事業推移



1. 会社概要
2. 2023年3月期決算概要
3. 2024年3月期の取り組みと業績見通し
4. 中期経営計画の取り組み状況
5. 参考資料

## 2023年3月期 連結損益の概況

売上高 : 北米市場向け販売は堅調に推移したものの、国内向け販売が受託実験の減少や自動車部品の販売減少等により前年を若干下回ったため、微減。

利益 : 原材料コスト・物流コスト上昇等のマイナス要因があったものの為替相場が想定よりも円安基調で推移したこと等により営業利益、経常利益は増加。当期純利益は本社厚木工場移転に伴う特別損失計上等もあり減少。

(単位：百万円、下段は構成比)

	2022年3月期	2023年3月期				
		実績	前期比	当初計画 (5/13公表)	計画 (1/27公表)	計画比
売上高	8,844 (100.0%)	8,802 (100.0%)	▲0.5%	8,000 (100.0%)	8,400 (100.0%)	+4.8%
売上総利益	2,476 (28.0%)	2,753 (31.3%)	+11.2%	-	-	-
販管費	1,392 (15.7%)	1,584 (18.0%)	+13.8%	-	-	-
営業利益	1,084 (12.3%)	1,169 (13.3%)	+7.8%	700 (8.8%)	920 (11.0%)	+27.1%
経常利益	1,372 (15.5%)	1,405 (16.0%)	+2.4%	600 (7.5%)	1,150 (13.7%)	+22.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	923 (10.4%)	878 (10.0%)	▲4.9%	300 (3.8%)	670 (8.0%)	+31.1%

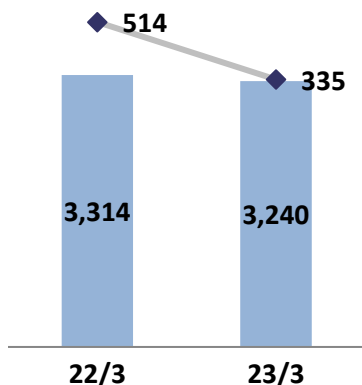
# 2023年3月期 セグメント別の概況

(単位：百万円)

## ガス機器事業

売上高 ▲2.2%  
利益 ▲34.8%

■ 売上高 ◆ 利益

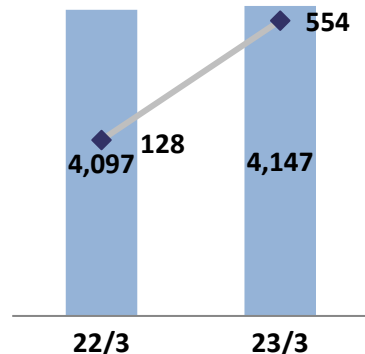


- フォークリフト向け部品の販売は増加したものの、受託実験の減少や自動車向け部品の販売減少により、減収減益

## 汎用機器事業

売上高 +1.2%  
利益 +432.8%

■ 売上高 ◆ 利益

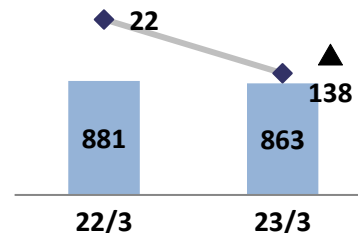


- 主要マーケットである米国市場の販売増加等により、増収増益

## 自動車機器事業

売上高 ▲2.0%  
利益 ▲727.3%

■ 売上高 ◆ 利益

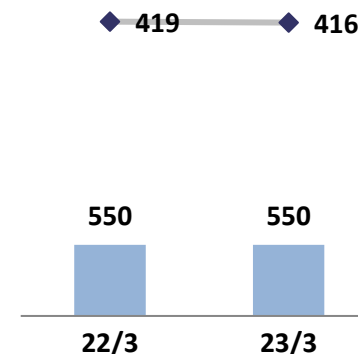


- インド市場向け製品の販売が増加したものの、国内キャブレターの販売が減少したことにより減収
- さらには、新規事業（電動・水素）にかかる開発費の先行負担等もあり減益

## 不動産賃貸事業

売上高 横ばい  
利益 ▲0.7%

■ 売上高 ◆ 利益



- 売上高・利益ともに概ね前期並みの水準

# 2023年3月期 連結貸借対照表の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

		2022年3月期末	2023年3月期末		主な増減要因
				前期比増減額	
資産合計	流動資産	8,000 (44.8%)	9,752 ( 48.1%)	+1,752	【流動資産】 ・ 現金及び預金 +1,418 ・ 売掛金 +424
	固定資産	9,839 (55.2%)	10,524 ( 51.9%)	+685	【固定資産】 ・ 建物及び構築物 +4,129 ・ 建設仮勘定 ▲3,529
	資産合計	17,839 (100.0%)	20,276 (100.0%)	+2,437	
負債・純資産合計	流動負債	5,864 (32.9%)	5,161 ( 25.5%)	▲703	【流動負債】 ・ 短期借入金 +1,067 ・ 設備関係支払手形 ▲1,808
	固定負債	2,829 (15.8%)	5,285 ( 26.1%)	+2,456	【固定負債】 ・ 長期借入金 +2,410
	負債合計	8,693 (48.7%)	10,447 ( 51.5%)	+1,754	
	純資産合計	9,145 (51.3%)	9,829 ( 48.5%)	+684	・ 利益剰余金 +738
負債・純資産合計	17,839 (100.0%)	20,276 (100.0%)	+2,437		
ネット有利子負債	632 (3.5%)	2,691 ( 13.3%)	+2,059		

※ネット有利子負債 = (短期借入金 + 長期借入金) - (現金及び預金)

# 2023年3月期 連結キャッシュフローの概況

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	
				主な内容
営業キャッシュフロー		677	801	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金等調整前当期純利益 1,187</li> <li>・利息及び配当金の受取額 68</li> <li>・法人税等の支払額 ▲489</li> </ul>
	投資キャッシュフロー	▲2,465	▲2,669	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得による支出 ▲3,237</li> <li>・有形固定資産の売却による収入 584</li> </ul>
フリー・キャッシュフロー		▲1,788	▲1,867	
財務キャッシュフロー		1,318	3,188	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期借入れによる収入 2,660</li> <li>・短期借入れによる収入 1,000</li> </ul>
換算差額等		▲108	117	
現金及び現金同等物の期末残高		3,137	4,575	
設備投資額		4,272	1,370	
減価償却費		473	545	

1. 会社概要
2. 2023年3月期決算概要
- 3. 2024年3月期の取り組みと業績見通し**
4. 中期経営計画の取り組み状況
5. 参考資料



# 2024年3月期 連結損益の見通し

(単位：百万円)

	2023年3月期実績		2024年3月期計画		
		構成比		構成比	前期比
売上高	8,802	100.0%	8,100	100.0%	▲8.0%
営業利益	1,169	13.3%	800	9.9%	▲31.6%
経常利益	1,405	16.0%	800	9.9%	▲43.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益	878	10.0%	500	6.2%	▲43.1%
設備投資額	1,370	15.6%	337	4.2%	▲75.4%
減価償却費	545	6.2%	728	9.0%	33.6%

## ■ 業績見通しは、減収減益

● 売上面では、ガス機器事業では、回復の兆しが見られる中国市場向け製品の販売強化・拡大やフォークリフト向け部品の販売拡大、汎用機器事業では新製品の販売開始等に加え、さらには中国・インド市場を中心として新規事業の積極的な展開を進めるものの、一部電子部品の供給不足や米国市場の景気動向等の不安定要因が並存しているため減収を見込む。

● 利益面では、引き続き採算性の改善に向け、製造拠点の見直しによるコストダウンや価格改定交渉に着実に取り組んで行くものの、売上高の減少、為替相場が前年度よりも円高水準で推移することが想定されること、減価償却費の増加等もあり減益を見込む。

## ■ 重点施策

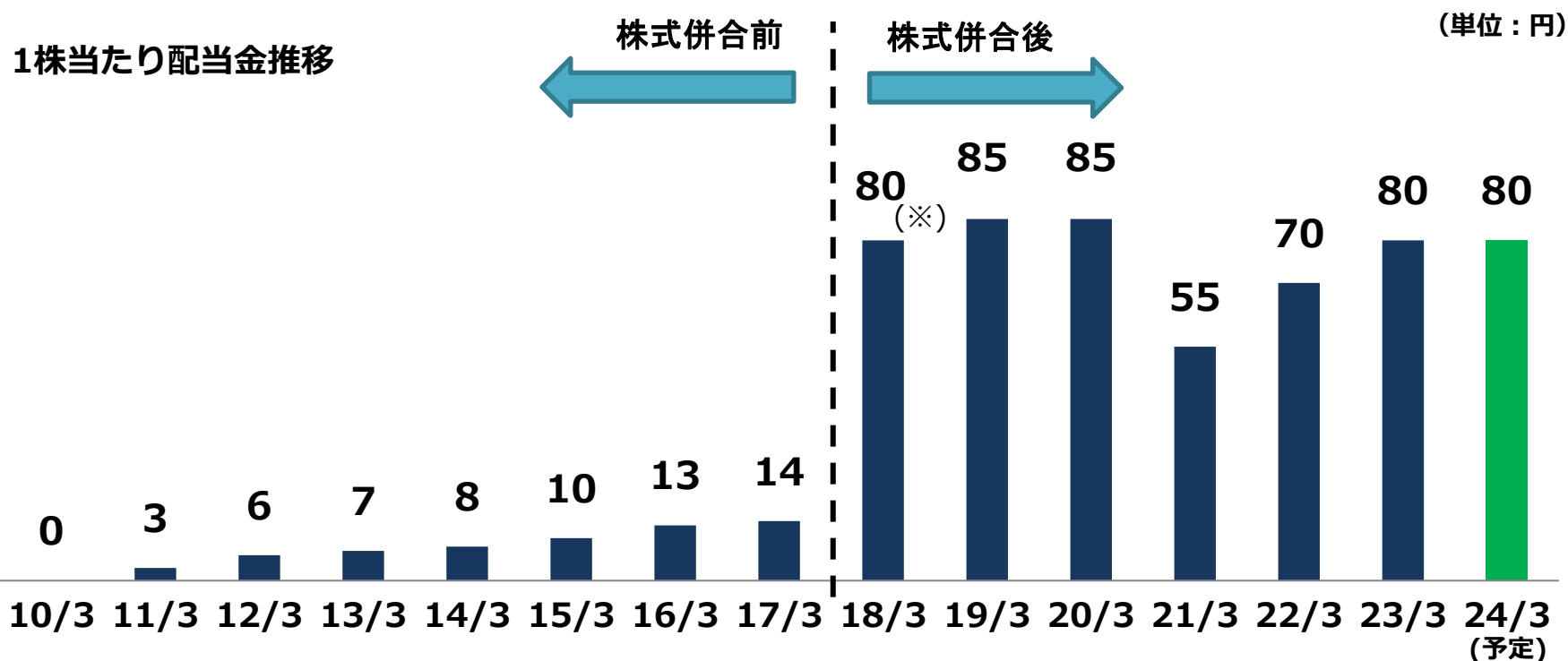
● ガス機器事業～回復の兆しが見られる中国市場での販売強化（ETB、レギュレーター他）、フォークリフト向け部品の拡販、インド市場のCNGビジネス拡大

● 汎用機器事業～フューエルポンプモジュールの新規顧客への販売、インド工場生産品（中国生産からのシフト品）の米国市場投入

● 新規事業～インド・中国・欧州・日本市場における電動・水素・アンモニア関連ビジネスの展開強化・売上確保

# 株主還元方針

- 安定配当をベースに業績及び経営環境等を総合的に加味した配当の継続を基本方針とし、2024年3月期は80円を予定  
(※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施)
- 資本効率の向上を勘案し、自己株式の取得等について今後も弾力的に実施・検討
- 配当性向：当面、連結ベースで30%を目標とする

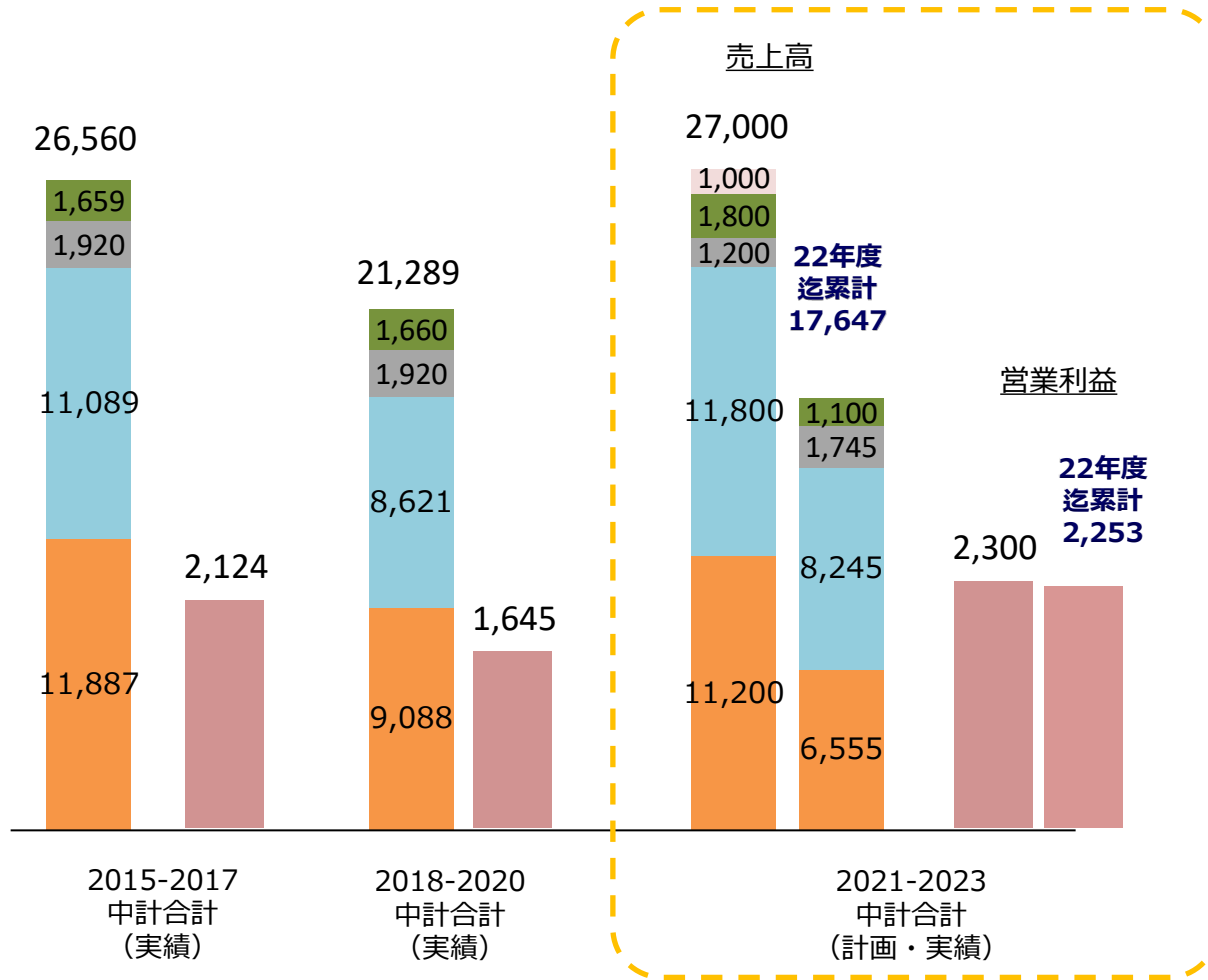


1. 会社概要
2. 2023年3月期決算概要
3. 2024年3月期の取り組みと業績見通し
4. 中期経営計画の取り組み状況
5. 参考資料

# 中期経営計画（2021～2023年度）および2022年度までの実績

■ ガス機器 
 ■ 汎用機器 
 ■ 自動車機器 
 ■ 不動産 
 ■ 電動系 
 ■ 営業利益

(単位：百万円)



<計数目標 (連結) >

3カ年合計

売上高	27,000百万円
営業利益	2,300百万円

# 中期経営計画の進捗状況

	重点方針・施策内容	進捗状況・その他
(1)	<p>優先的に取り組むべき新規事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 脱炭素により今後のボリュームゾーンとなる脱エンジンの新規事業・商品である電動系・メカトロ関連事業に最優先での対応を図る</li> <li>② FCV・水素関連事業は、既存のガス事業技術での延長・拡大での対応が可能であり、従来技術との親和性も高いため積極的な対応を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 電動：日本国内・インド農機メーカー向けモーター&amp;ドライバー拡販活動推進中（23年度量産開始予定）</li> <li>▷ 水素：欧州システムメーカー向け23年度量産開始国内取引先では試作から量産に向けた動きに対応（水素・アンモニア）中国産機メーカーより開発要請に対応中</li> <li>▷ 国内大学と水素エンジン開発での共同研究実施中</li> </ul>
(2)	<p>重点的に取り組むべき市場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 4輪車・2輪車の最大市場であり、更なる市場規模の拡大が見込める中国市場およびインド市場を引き続き重点市場として対応する</li> <li>② 中国・インドのガス顧客の将来的なFCV（水素）へのシフトも十分見込まれ、今後の新規事業の拡大につなげるため積極的な対応を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 高度な制御技術を用いた2輪車用モーター&amp;ドライバーを開発し、拡販活動展開中</li> <li>▷ インド向けに、新たに2輪車用ECUを投入済2輪車大手OEMにも売込中</li> <li>▷ 中国向け2輪車用ECU拡販活動実施中</li> <li>▷ 中国・インド顧客向けに将来のFCVシフトを見込んだガス製品拡販推進中</li> </ul>
(3)	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 顧客ニーズの多様性・高度化への対応を強化するためにファブレス化やモジュール化について検討を進める</li> <li>② 異業種も含めた提携の強化・連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ ファブレス化：モーター&amp;ドライバー、4輪車用電動補機を中国企業に生産委託</li> <li>▷ 電機業界・農機業界・建機業界との連携強化</li> </ul>

自動車産業は100年に1度の  
大変革期

世界的に脱炭素・カーボン  
ニュートラルの流れが一段と加速

外部環境の変化

## 事業構造の転換が必須

→ 「将来の主力となるべき新規事業の創出」

Point1

### 優先的に取り組むべき新規事業

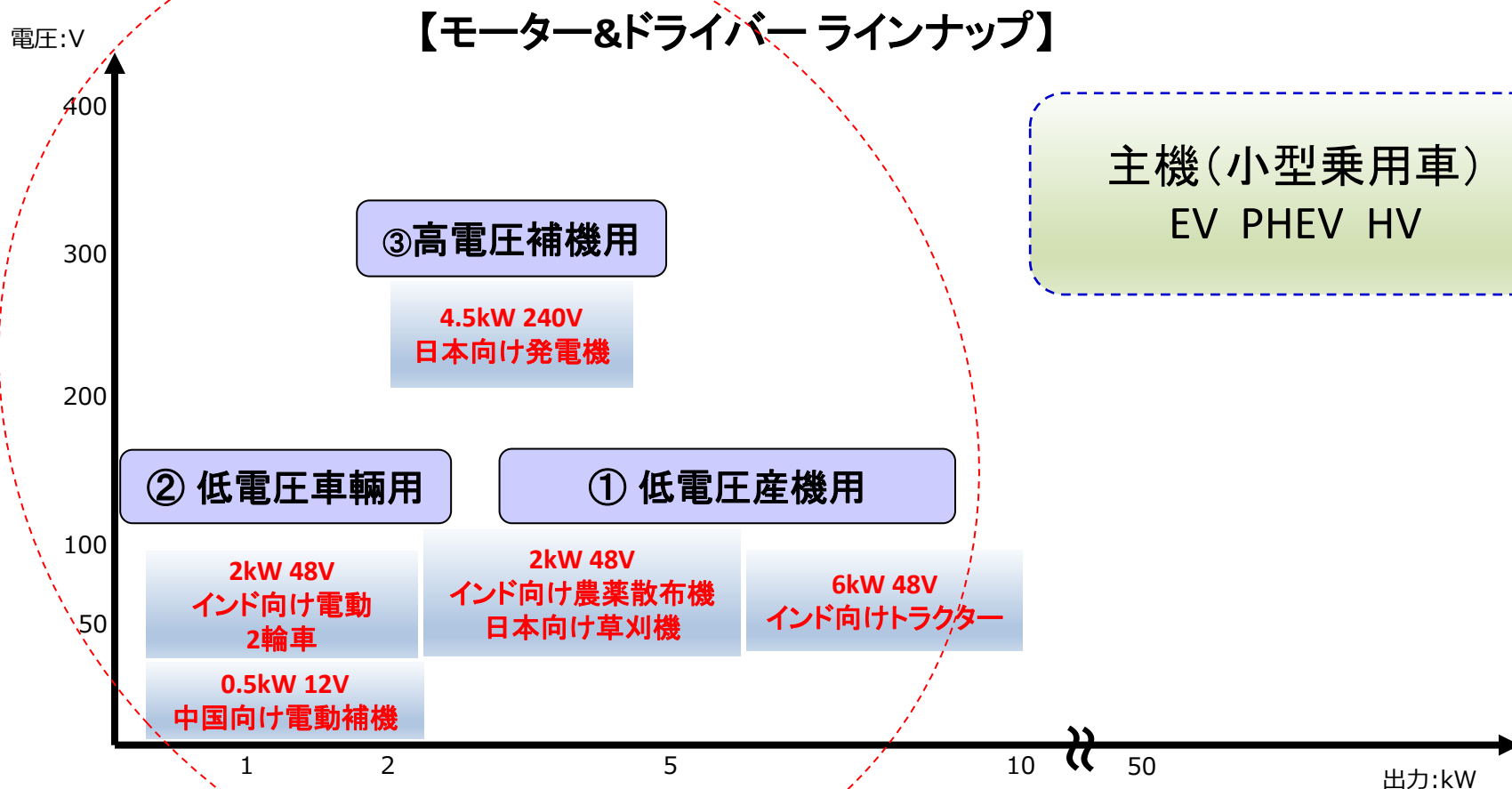
- ① 電動系・メカトロ関連事業
- ② FCV・水素関連事業

Point2

### 重点的に取り組むべき市場

- ① 中国・インド市場を引き続き重点市場として対応
- ② 中国・インドのガス顧客の将来的なFCV（水素）シフトに対し積極的に対応

出力が小さい①低電圧産機用②低電圧車輛用③高電圧補機用へ参入  
→ 参入分野を絞り、大手メーカーとの差別化を図る

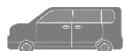




# 代替燃料に対する取り組み



乗用車



小型商用車



フォークリフト



中大型トラック



中大型バス



産業用エンジン

技術的難易度

$H_2 \cdot NH_3$   
水素 ・ アンモニア

LNG

液化天然ガス

CNG

圧縮天然ガス

LPG

LPガス

LPG

LPガス

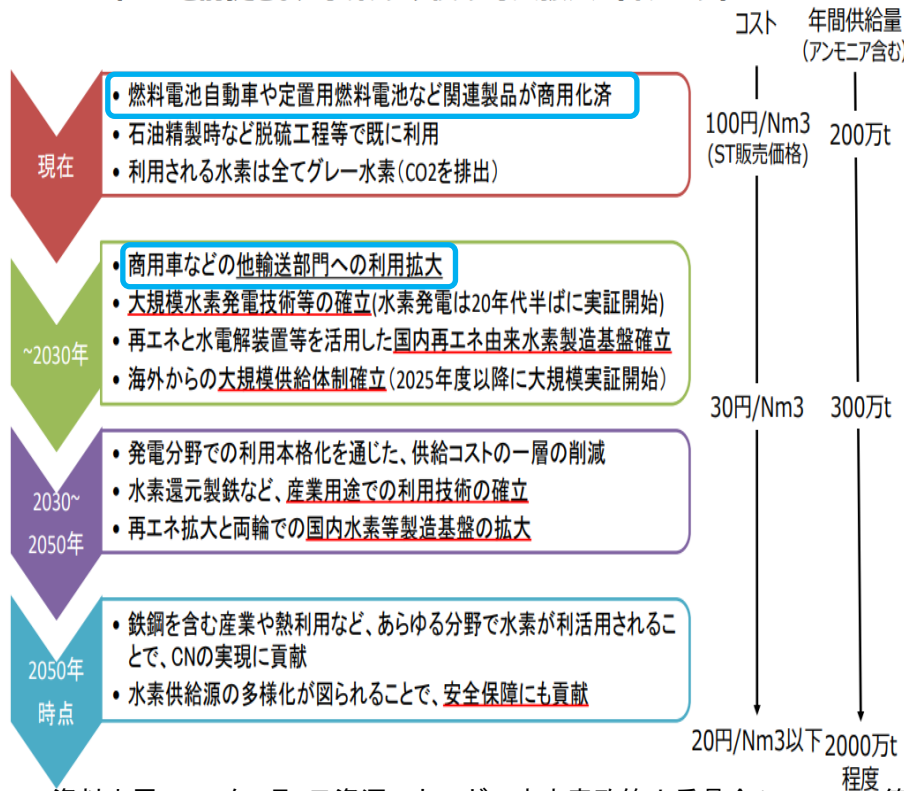
従来対応してきたLPG、CNG、LNG用製品に加えて、新たにカーボンニュートラルに有効な水素・アンモニア対応製品も開発（既存ノウハウの活用）

→ ガス～水素・アンモニアまで代替燃料の裾野を拡大

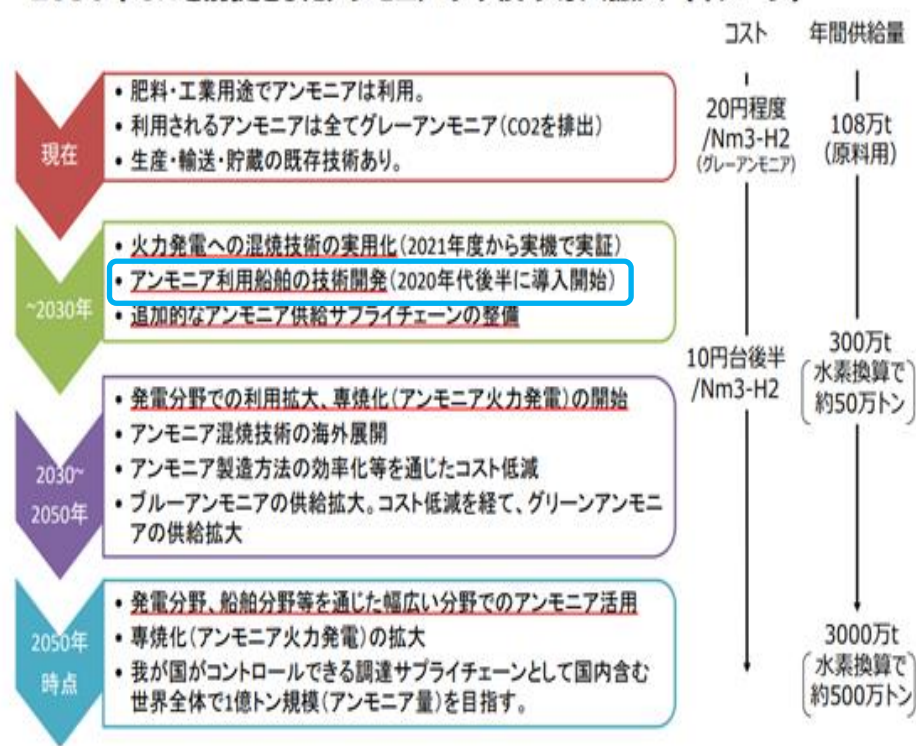
## 下図青線枠の分野で国内外企業に製品納入済

⇒インジェクター・レギュレーター(水素・アンモニア)、ガスミキサー(水素)

### 2050年CNを前提とした水素の今後の導入拡大(イメージ)



### 2050年CNを前提としたアンモニアの今後の導入拡大(イメージ)



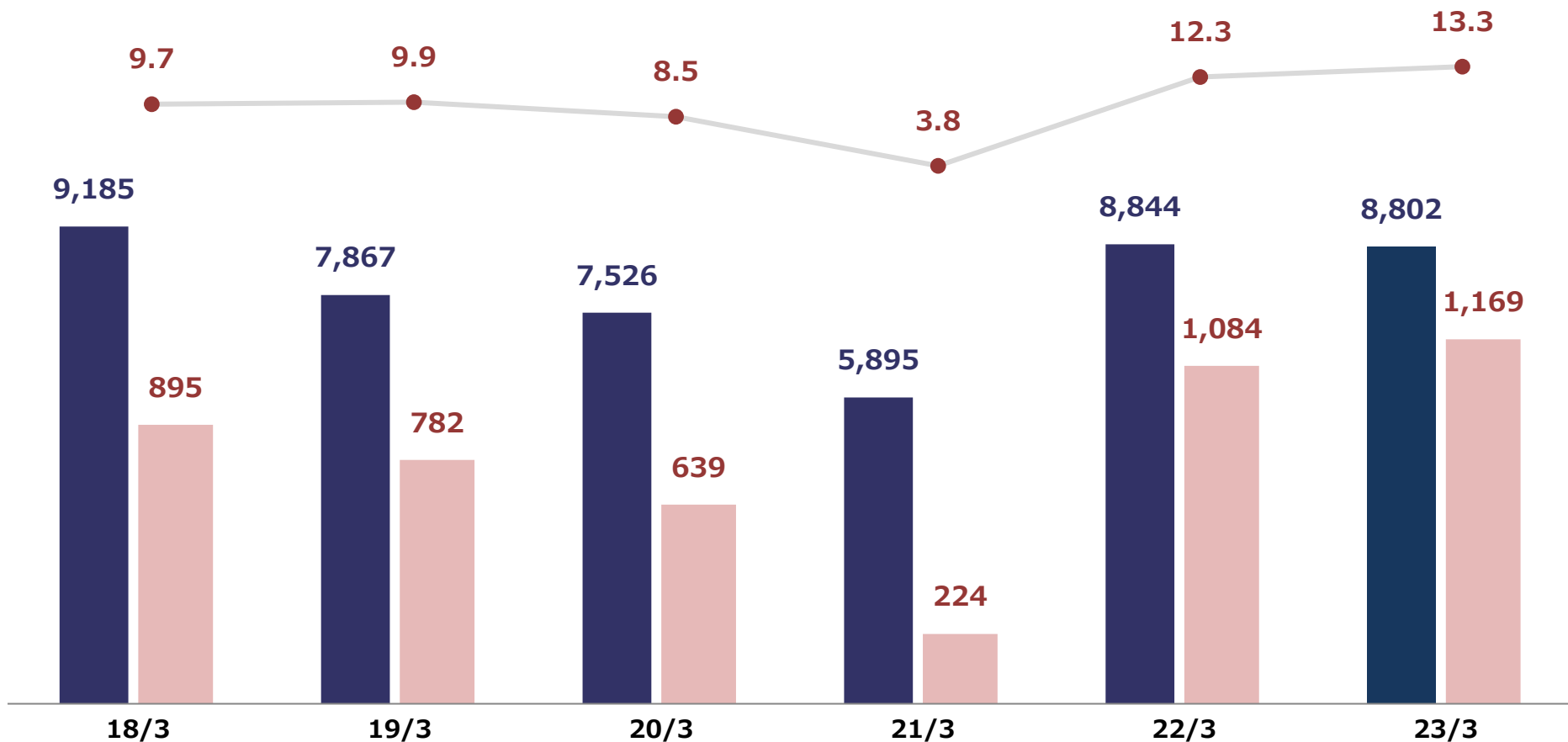
資料出展: 2023年1月4日資源エネルギー庁水素政策小委員会/アンモニア等脱炭素燃料政策小委員会 合同会議 中間整理資料(青線枠は当社追加)

1. 会社概要
2. 2023年3月期決算概要
3. 2024年3月期の取り組みと業績見通し
4. 中期経営計画の取り組み状況
5. 参考資料

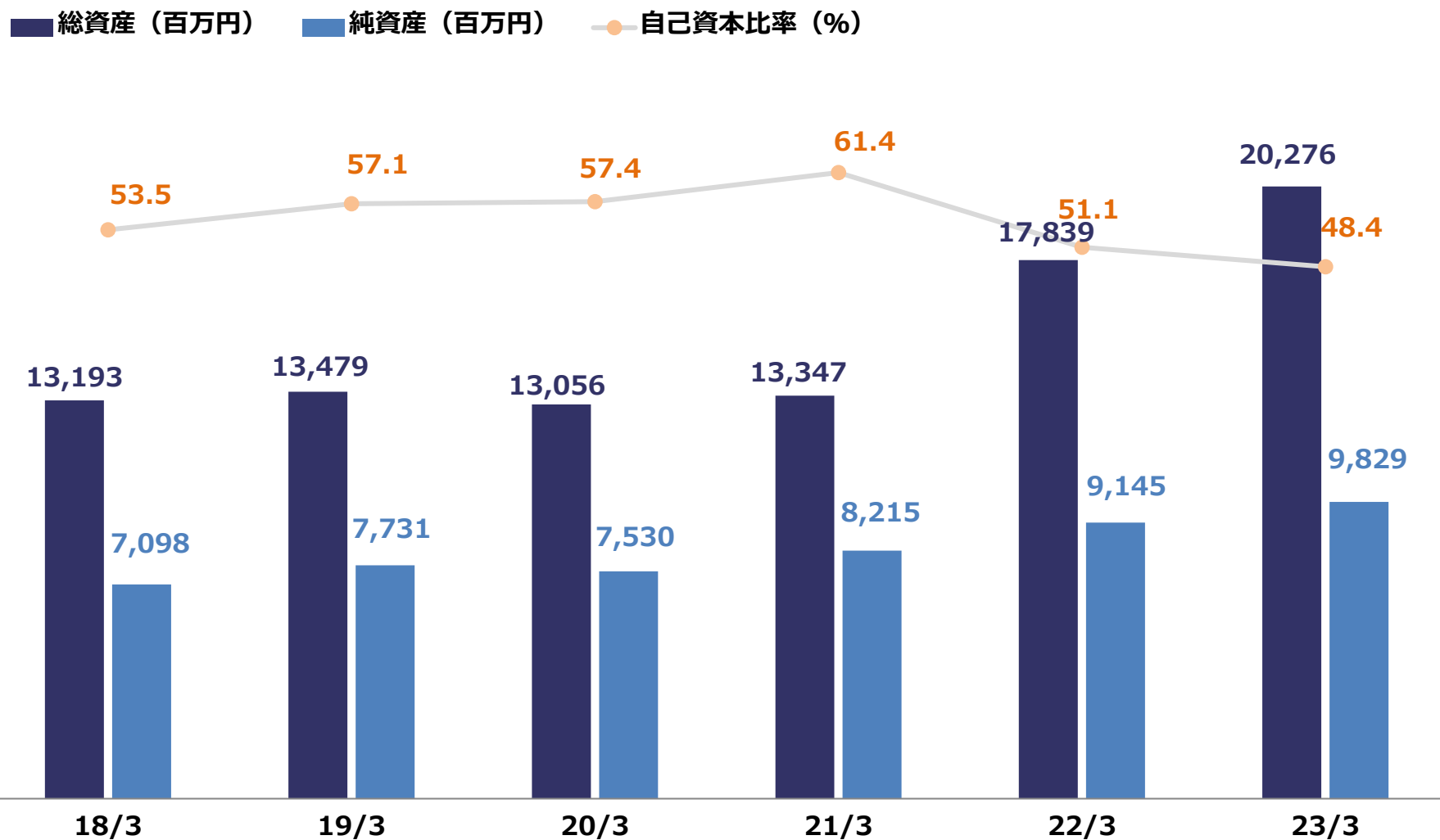
# 連結業績推移 (1)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 売上高営業利益率 (%)

(百万円)

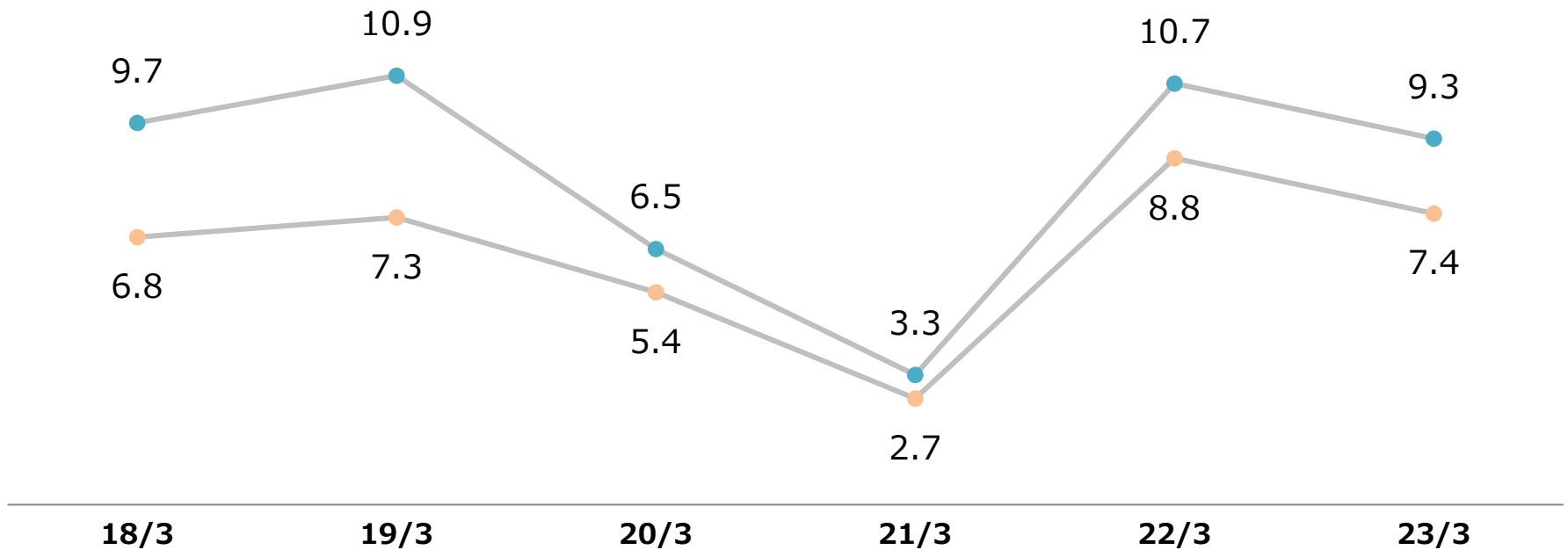


## 連結業績推移 (2)



# 連結業績推移 (3)

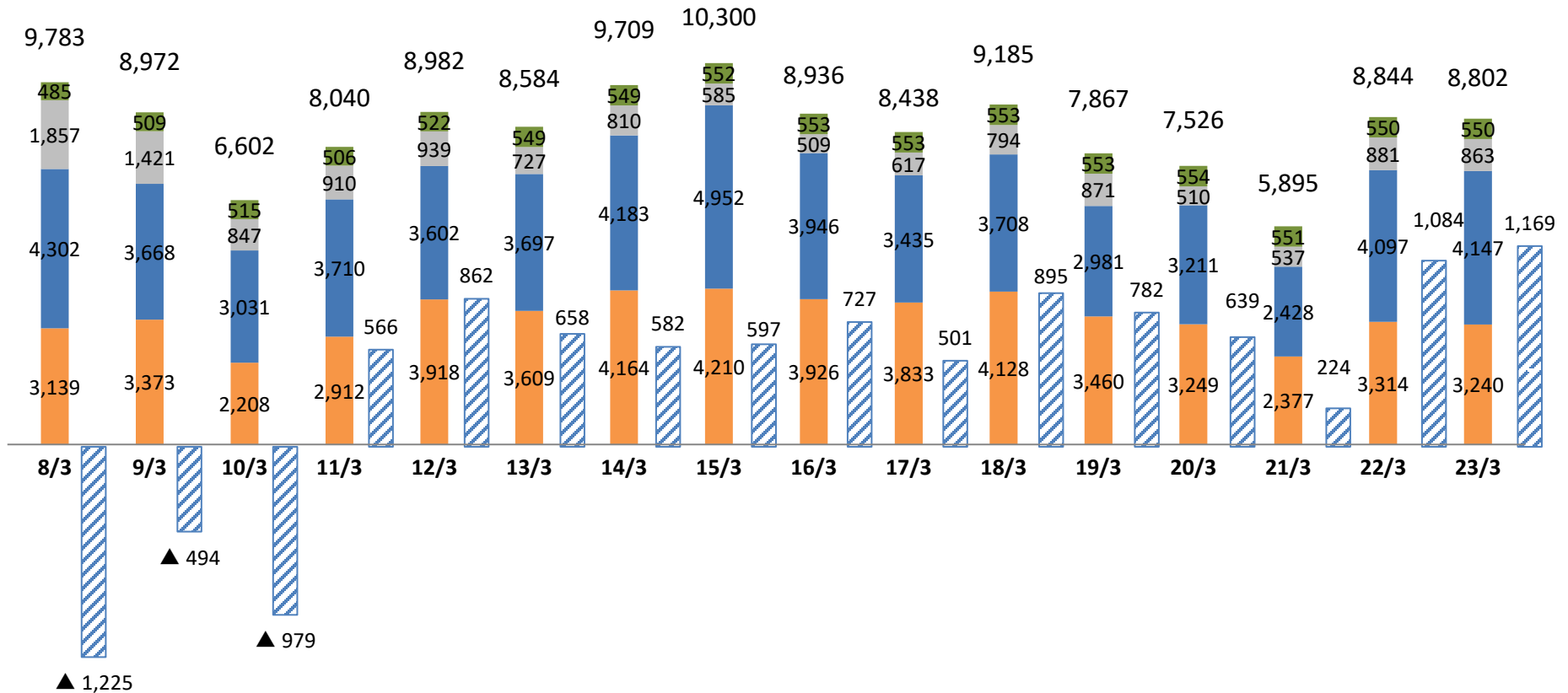
● ROE (自己資本当期純利益率) (%)  
● ROA (総資産經常利益率)



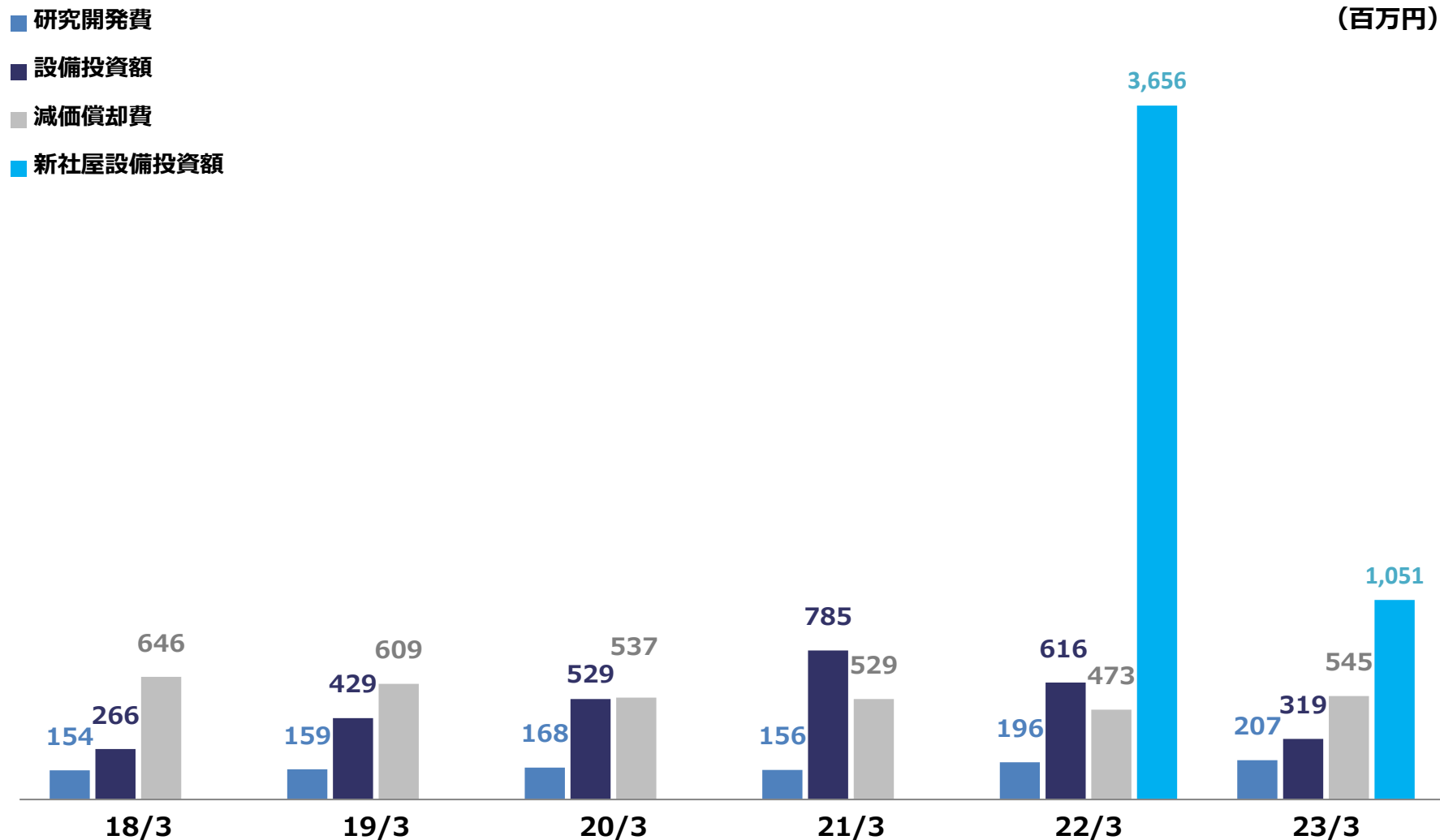
# セグメント別外部売上高、連結営業利益推移

(百万円)

■ ガス機器事業
 ■ 汎用機器事業
 ■ 自動車機器事業
 ■ 不動産賃貸事業
 ■ 営業利益

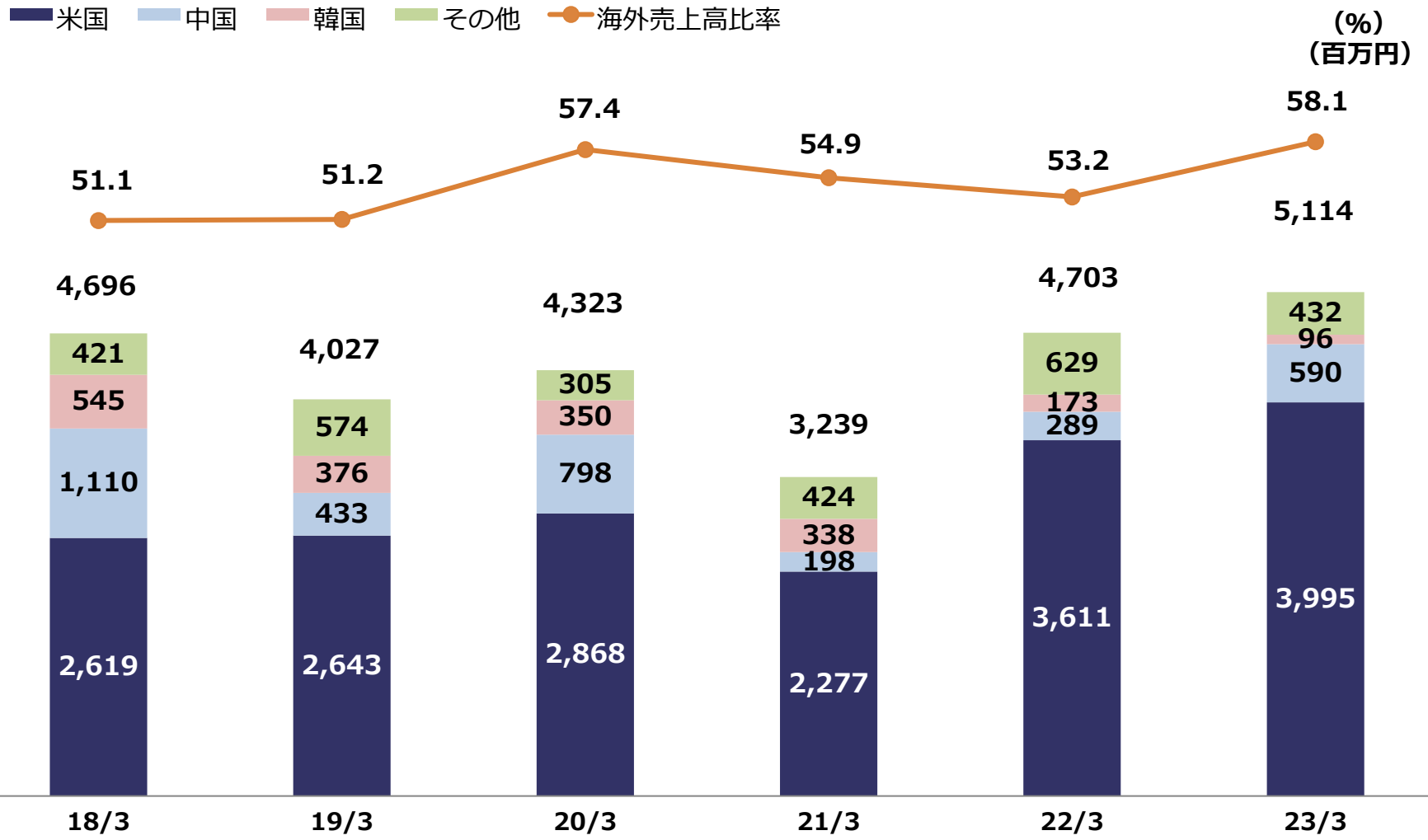


# 研究開発費・設備投資額・減価償却費の推移





# 海外売上高推移

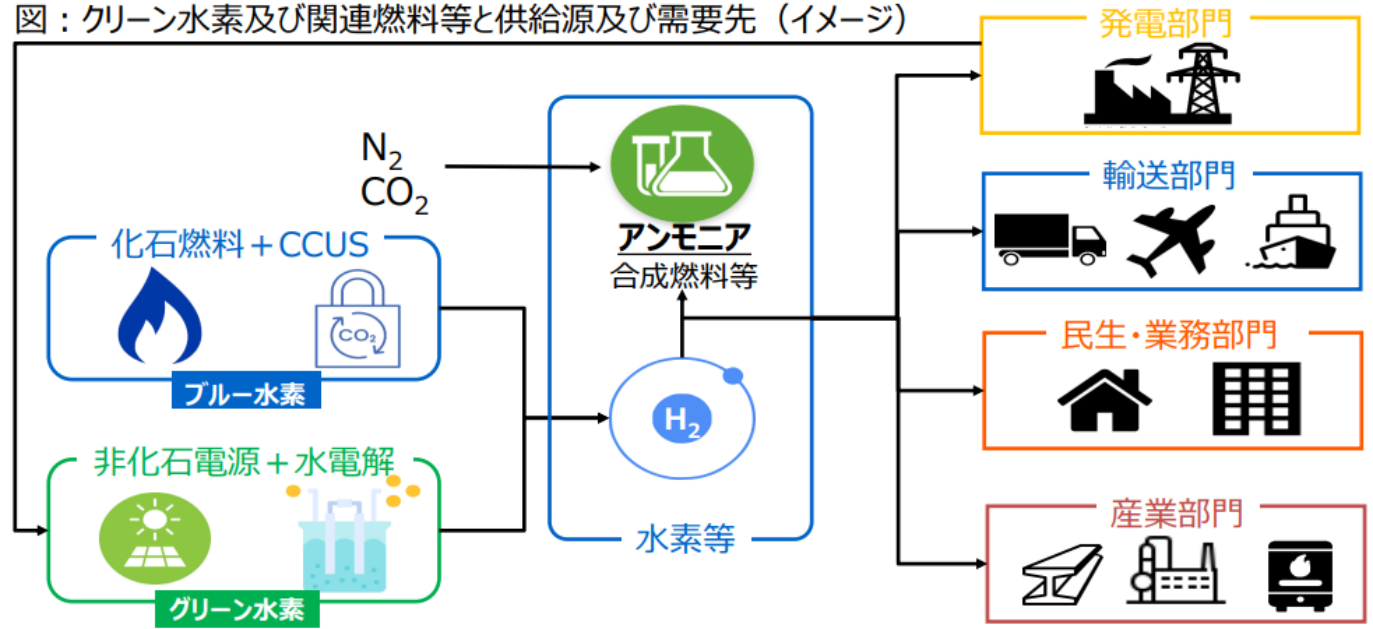


# カーボンニュートラルに必要な不可欠な水素

・日本はエネルギー基本計画から水素を新たな資源と位置づけ、社会実装を加速させている。

- 水素は直接的に電力分野の脱炭素化に貢献するだけでなく、余剰電力を水素に変換し、貯蔵・利用することで、再エネ等のゼロエミ電源のポテンシャルを最大限活用することも可能とする。
- 加えて、電化による脱炭素化が困難な産業部門(原料利用、熱需要)等の脱炭素化にも貢献。
- また、化石燃料をクリーンな形で有効活用することも可能とする。
- なお、水素から製造されるアンモニアや合成燃料等も、その特性に合わせた活用が見込まれる。

図：クリーン水素及び関連燃料等と供給源及び需要先（イメージ）



出展：2023年1月4日資源エネルギー庁水素政策小委員会/アンモニア等脱炭素燃料政策小委員会 合同会議 中間整理資料

- 本資料は株式会社ニッキ（以下、当社）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- また、経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ニッキ 総務部経理課

TEL : 046-285-0228 / E-mail : ir@nikkinet.co.jp